

インターバンクの声（2016年2月9日）

ドル円が昨日の東京市場の午後に117円50銭台までドル買いが進んだのは何だったのか。ロンドン勢が参入する頃になって以降は、一転してドル売りが続き、ニューヨーク市場では115円台前半までドル売りが進んだ。ニューヨーク市場の終盤になって115円台後半までドルが買い戻される調整も見られたが、2014年12月に一旦120円を越えるドル買いが進んだ後、その半月後と翌2015年1月に115円台までドルが反落した水準は既に下回っており、ドル円の足許のモメンタムは依然として円高方向にあるということだろう。東京市場では日経平均が上昇して引けたが、久しぶりに聞いたギリシャへの支援に関するニュースなど、欧州南欧高債務国の国債利回り上昇、原油価格の下落など、市場のリスク回避の姿勢は緩むどころか強まるばかりだ。週末の米雇用統計結果から一旦弱まったかと思われた世界経済の減速懸念も、週初の欧米市場では依然として不透明感が強かった。ニューヨーク株式市場でも金融株の下落が進んだ。議会証言でイエレン議長から強気の発言が聞かれない限り、ドル売りの流れが続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。